

2027年3月期第2四半期 決算説明資料 트레이ダーズホールディングス株式会社

証券コード：8704
2026年10月30日



JPX-NIKKEI Mid Small



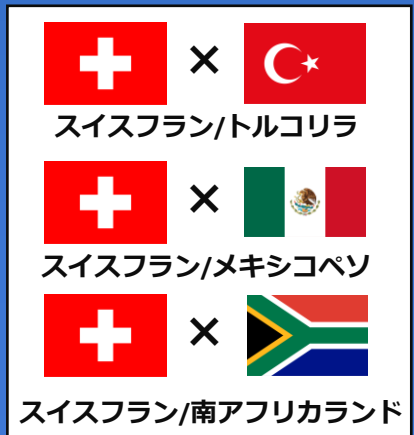
金融を、もっと面白く。

当社グループの競争優位性

- ✓ これまで当社グループは、商品力およびシステム開発力を基盤に新たな価値を創出してきました。
今後はこれらの強みをさらに進化させるとともに、プロダクト創出力および知財戦略という新たな力を確立し、さらなる競争優位と新たな価値提供を実現してまいります。



- ・ 業界最高水準のスプレッド
スワップが生み出す、
強い競争力



新領域



- ・ 20年以上のFX専門知見に裏打ちされた圧倒的な問題解決力
- ・ 市場変化に即応する圧倒的な開発スピード
- ・ グループシナジーによる低コスト運営を実現

- ・ 知財で超過収益力を防衛
- ・ 独自性の確立と競争優位の強化
- ・ 収益機会の最大化

4年連続でJPX日経中小型株指数に組み入れられました



JPX-NIKKEI Mid Small

2023 - 2026年度選定

- 1 2027年3月期 第2四半期業績ハイライト**
- 2 2027年3月期通期業績予想**
- 3 2027年3月期の施策**
- 4 株主還元・株式情報**
- 5 Appendix**

金融を、もっと面白く。



2027年3月期 第2四半期 業績ハイライト

2027年3月期第2四半期 エグゼクティブサマリー

金融を、もっと面白く。



営業収益



10,305 百万円

前年同期比
+76.0%

営業利益



6,407 百万円

前年同期比
+163.6%

営業利益率



62.2 %

前年同期比
+20.7ポイント

親会社株主に
帰属する中間純利益



4,293 百万円

前年同期比
+145.7%

預り資産



1,393 億円

前期末比増減
+60億円

- ✓ 中東情勢に絡む地政学的リスクの影響等に伴うトルコリラの短期金利の上昇および第2四半期における日米協調介入、米国要人による円安けん制発言等に端を発した為替相場の急変動が大きな収益機会となりトレーディング損益が伸長。
- ✓ 日銀利上げにより顧客分別金信託の運用収益（金融収益）も上振れ。
- ✓ 主に人件費・不動産関係費・租税公課などの増加により販管費合計は前年同期を上回ったものの、計画に対しては想定内。固定費型のコスト構造により、大幅増収がそのまま増益に寄与し営業利益率を押し上げ。
- ✓ 顧客預り資産は9月の急激な円高進行に伴う実現損の発生が影響し、中間期末時点で通期増加目標168億円に対する進捗率が約36%に留まり未達。

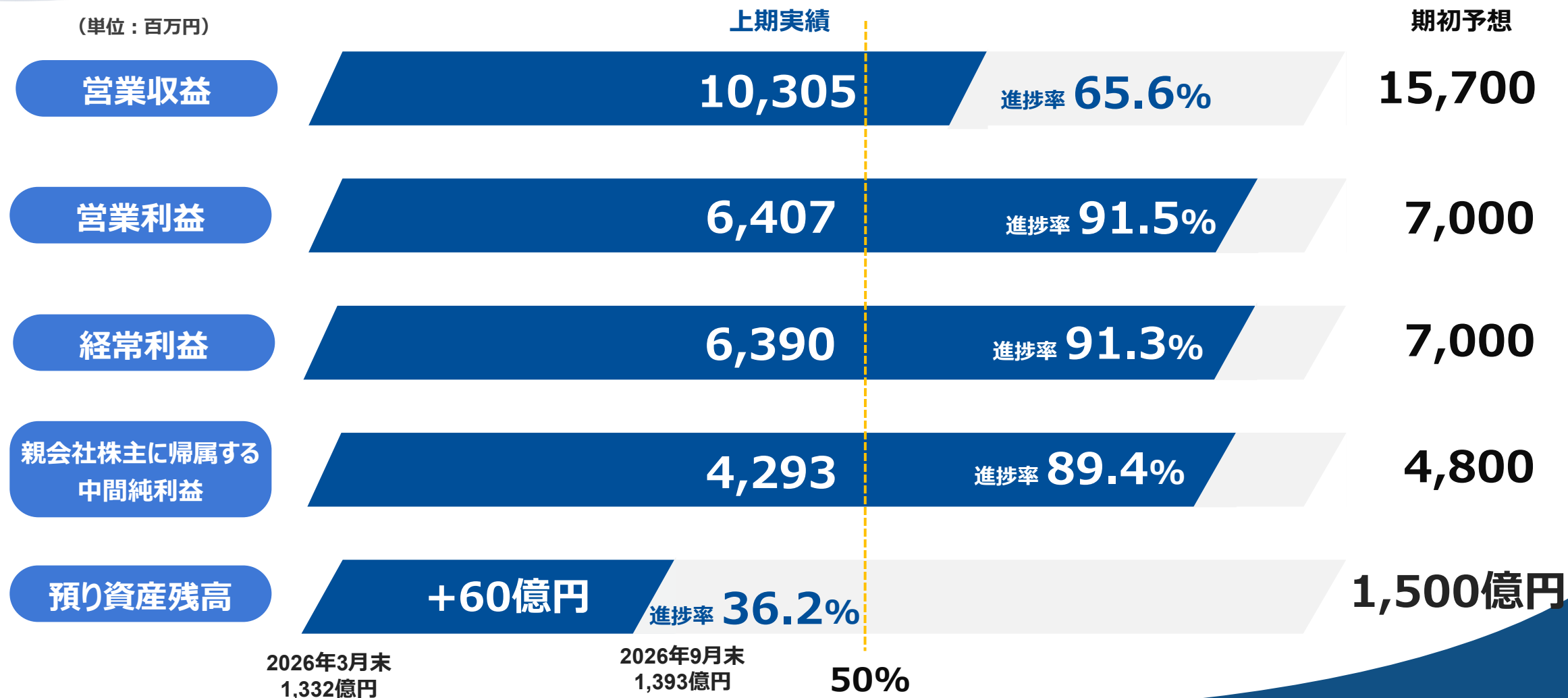
期初通期業績予想に対する上期連結業績の進捗率

金融を、もっと面白く。



- ✓ 営業利益の期初予想に対する進捗率は、中間期末で約92%に達し、想定を大きく上回った
- ✓ 一方、顧客預り資産の増加目標に対する進捗率は約36%にとどまり、利益面の進捗に対して顧客基盤の拡大には課題が残る
- ✓ 通期連結業績予想を上方修正（P.20に詳述）

（単位：百万円）

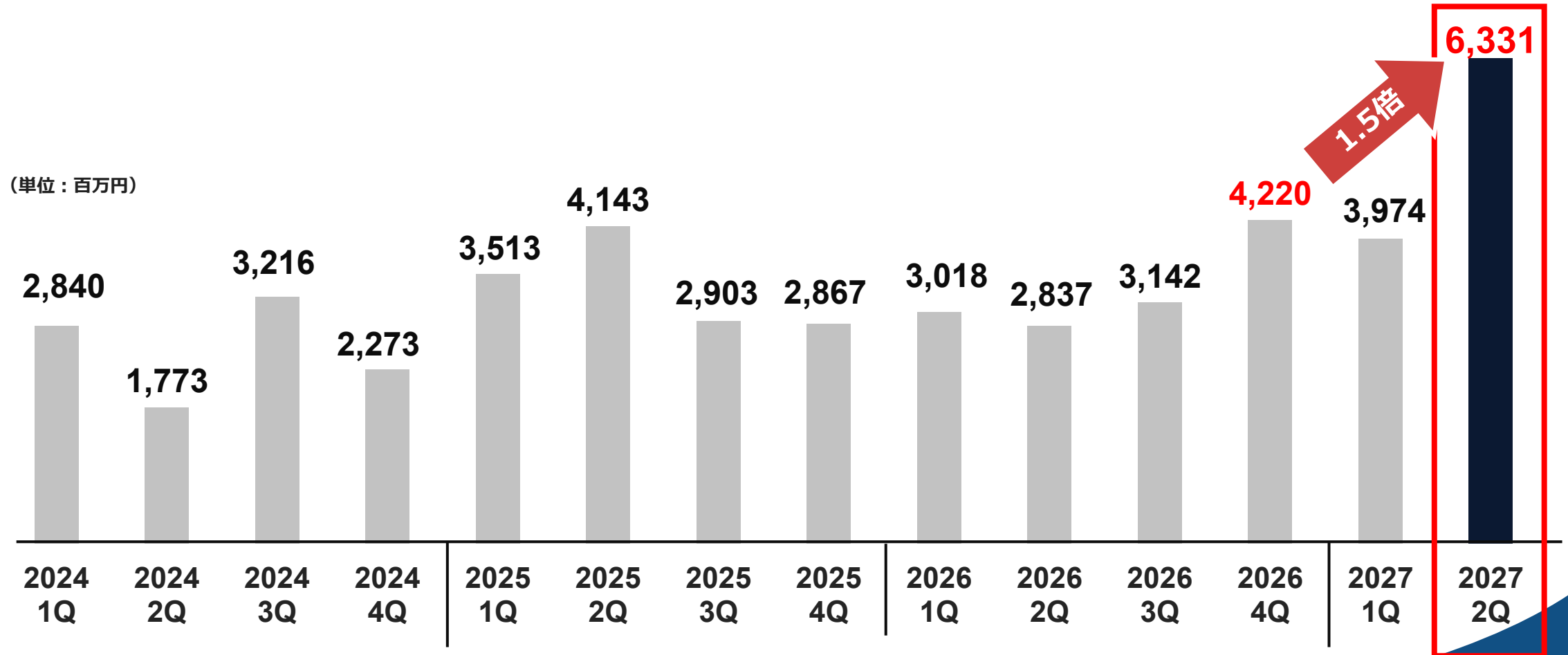


業績推移（営業収益）

金融を、もっと面白く。



- ✓ トルコリラの短期金利上昇を背景にスワップ[°]収益を確保する一方、第2四半期は為替相場の急変動が大きな収益機会となり、**四半期営業収益は過去最高だった42億円から約1.5倍の63億円へ大幅更新**



当社における顧客建玉数の推移（四半期）

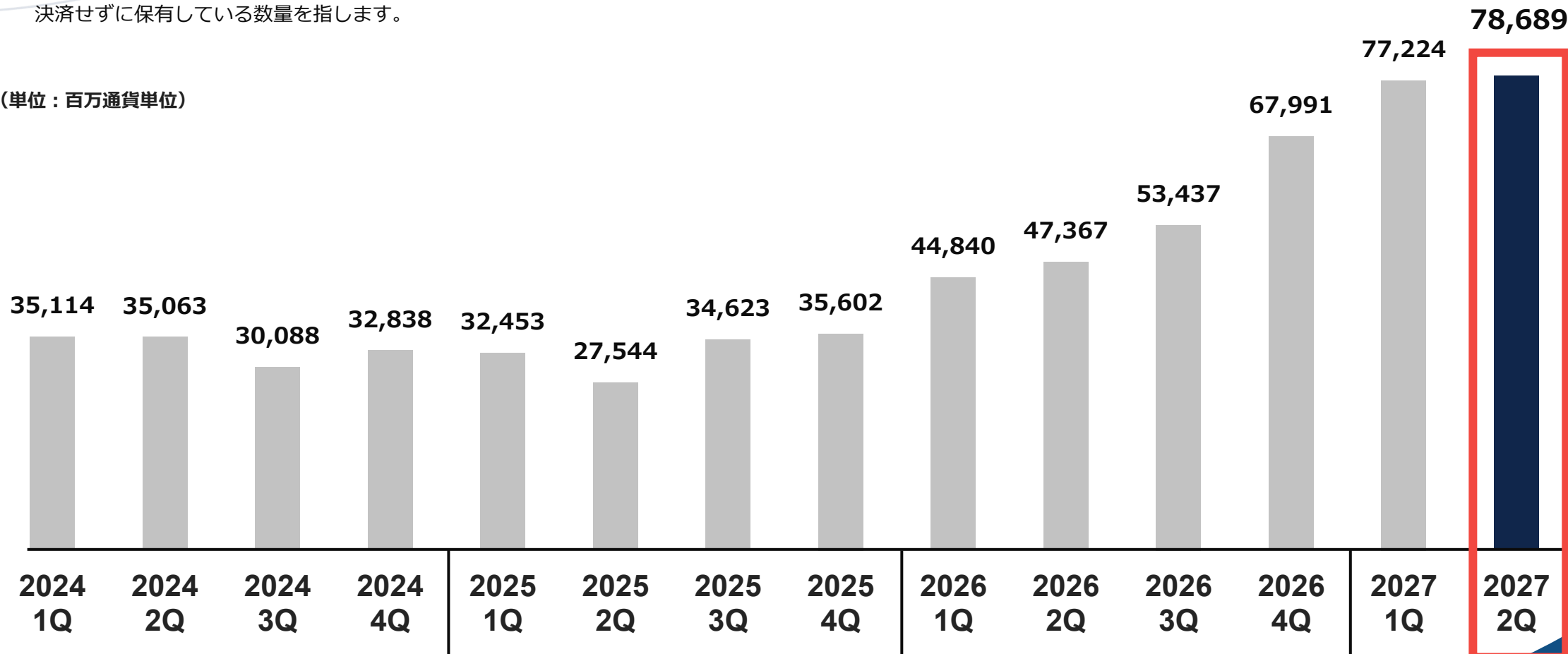
金融を、もっと面白く。



- ※
✓ これまで積み上げてきた厚い顧客建玉が、相場転換局面における取引・決済の活性化を通じて収益機会の拡大に寄与
- ✓ 大きな相場変動を経た後も2Q末の顧客建玉は1Q末を上回る水準を維持

※顧客建玉数とは、FX取引において、お客様が新規に建てたポジション（買い建玉・売り建玉）を決済せずに保有している数量を指します。

（単位：百万通貨単位）

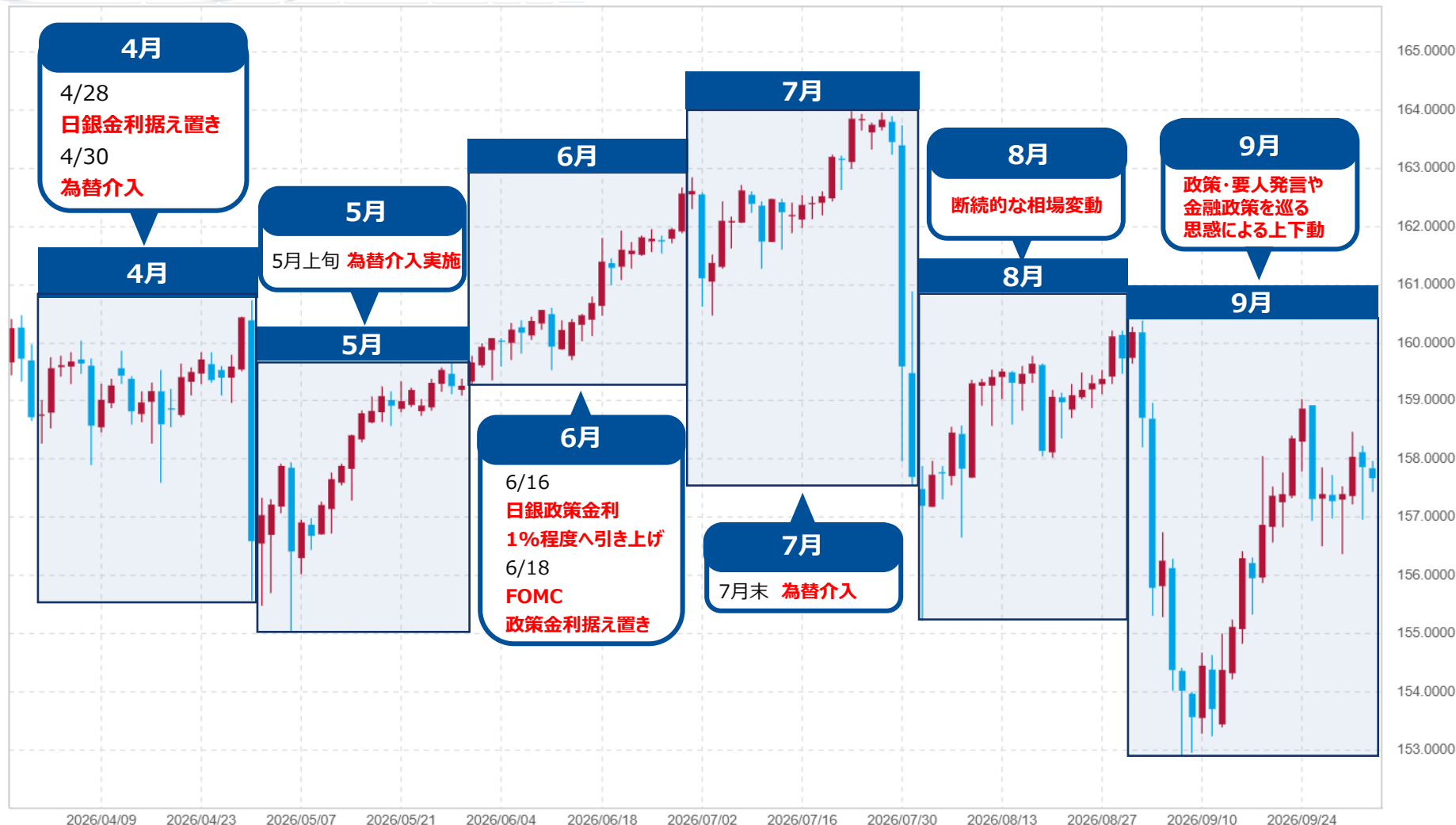


2027年3月期第2四半期 市況概況

金融を、もっと面白く。



USDJPY (日足チャート)



市況概況

7月：円安基調が続く中、7月末の日米財務当局による協調介入を契機に円売りポジションの巻き戻しが加速し、ドル/円は急速に円高方向へ変動。その後は円安方向への戻りもみられ、一方向の相場から双方向に値幅が拡大。

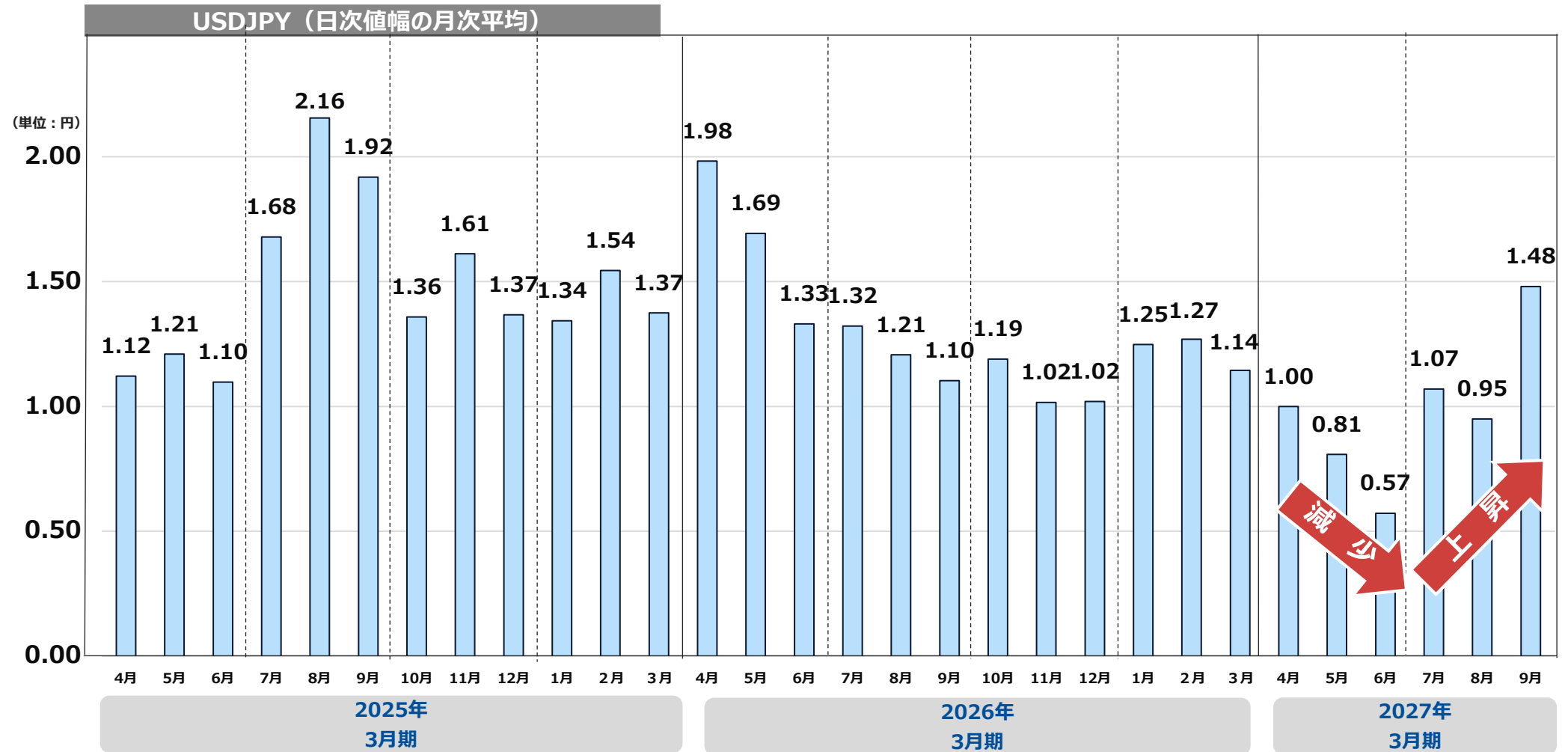
8月：介入後の円高の持続性を見極める中、追加介入への警戒と日米の金融政策・金利見通しが交錯。日米金利差を背景とした円売り需要も根強く、円高・円安双方に振れる不安定な展開が継続。

9月：日米の金融政策を巡る市場の織り込みが大きく変化する中、要人発言や円安牽制、追加介入への警戒も加わり、ポジション調整が断続的に発生。月を通じて上下双方への値動きが拡大。

総括：第2四半期は、為替介入を契機にそれまでの円安基調が急反転し、その後も日米の金融政策・金利見通しの変化を背景に、低ボラティリティ環境から双方向に値幅の大きい相場へ転換。

過去3期分のドル/円日次値幅の月次平均推移

- ✓ 7月末の日米財務当局による協調介入を契機にドル/円は急速に円高方向へ変動し、その後は円安方向への巻き戻しも加わり値幅が拡大 8～9月も日米の金融政策見通しや円安牽制・追加介入への警戒等が交錯し、第1四半期までの低ボラティリティ環境から相場環境が大きく変化



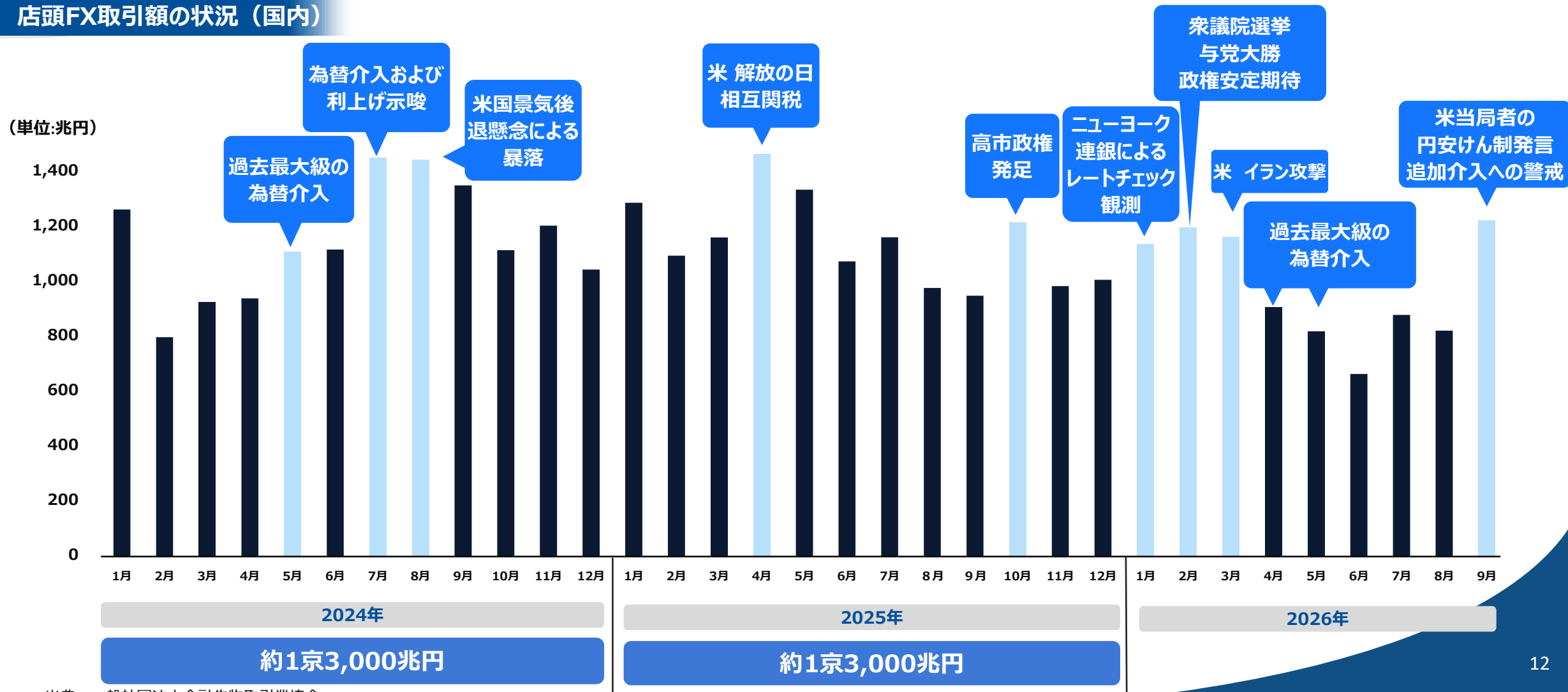
国内FX市場全体の取引高推移

金融を、もっと面白く。



✓ 4月以降低水準で推移していた国内FX市場全体の取引高は、9月に年初来最高を記録

店頭FX取引額の状況（国内）

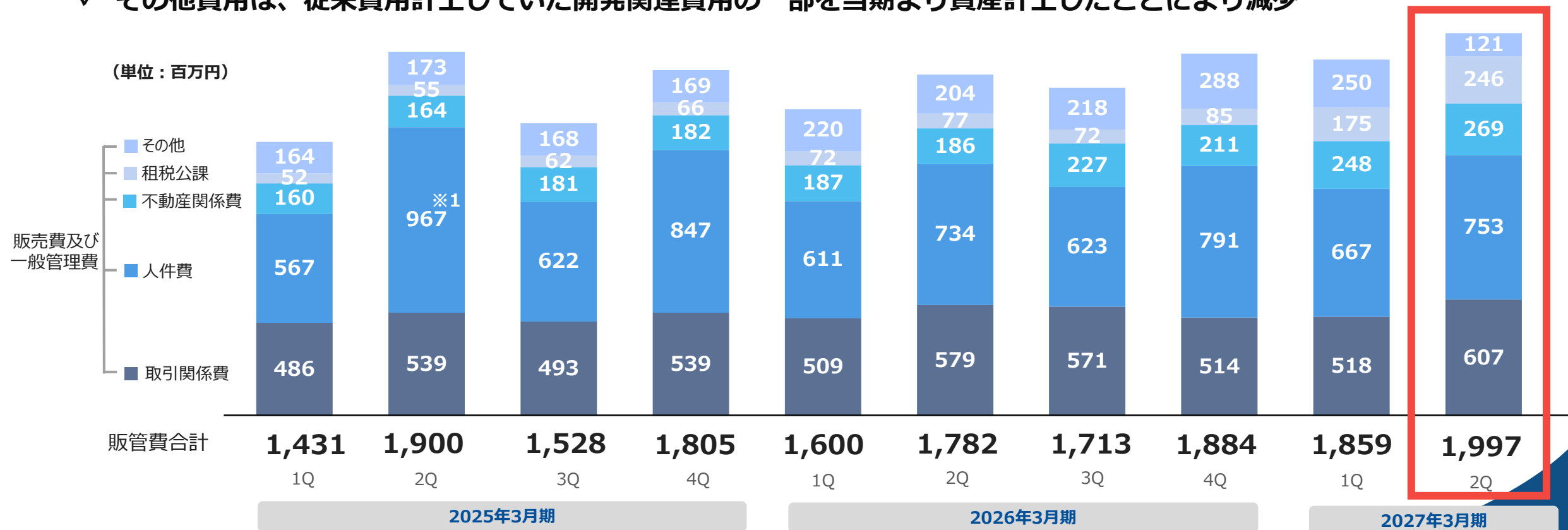


販管費の推移

金融を、もっと面白く。



- ✓ 顧客預り資産の拡大に向けたマーケティング施策を継続する一方、取引関係費は前年同期並みの水準で推移
- ✓ 給与改定に伴う人件費の増加と、前期下期のオフィス増床に伴う不動産関係費の増加を反映
- ✓ 日銀の利上げを反映した金融収益の増加に伴い、支払消費税のうち控除(還付)の対象とならない金額が増加したため、費用処理した消費税が増加し租税公課が前年同期比で増加
- ✓ その他費用は、従来費用計上していた開発関連費用の一部を当期より資産計上したことにより減少



※1 会計上の見積もり変更反映による一時的増加約2.5億円を含んだ金額

※ 端数処理により、各項目の合計が合計値と一致しない場合があります。

【参考】連結業績の四半期ごとの比較

金融を、もっと面白く。



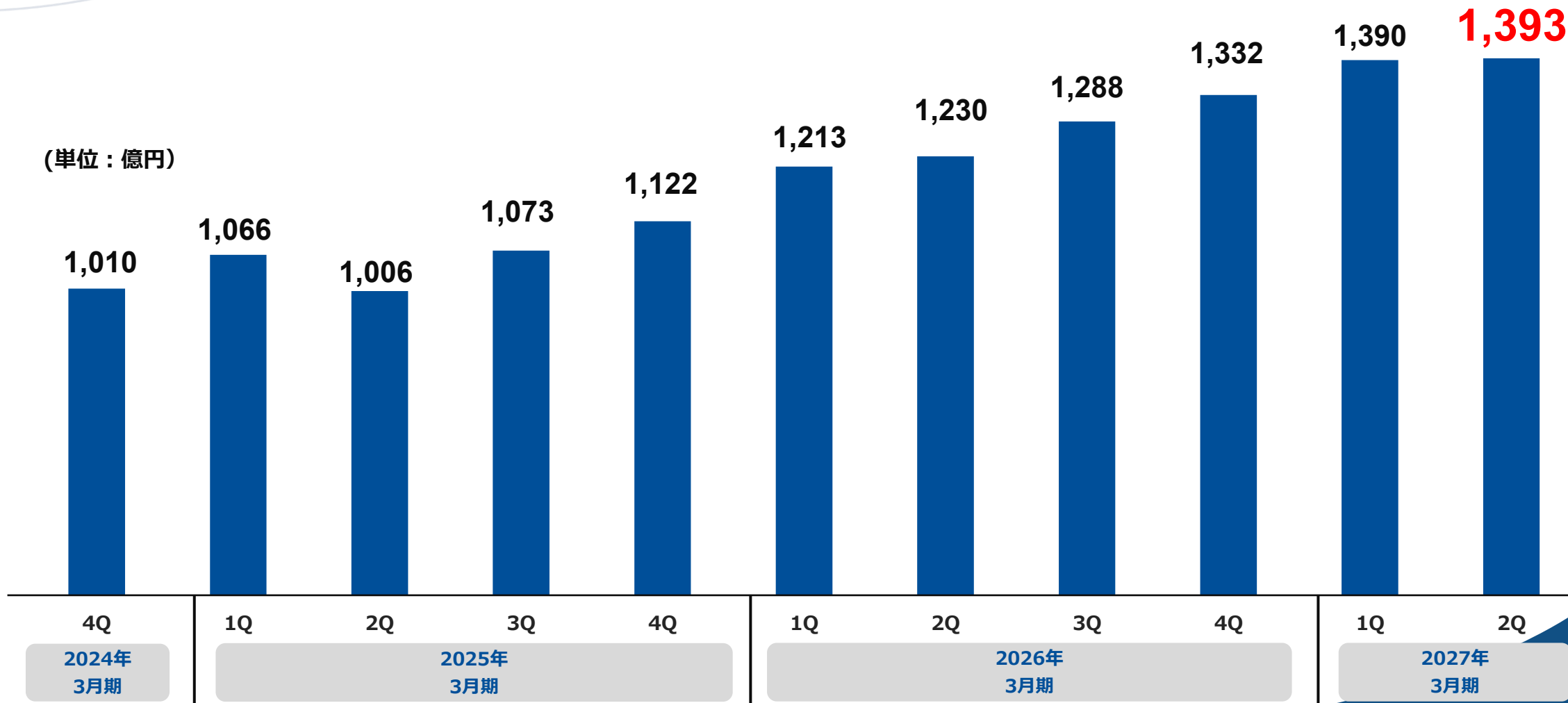
(単位：百万円)	2026年3月期				2027年3月期		前年同期比 (増減率)
	1Q (2025年4-6月)	2Q (2025年7-9月)	3Q (2025年10-12月)	4Q (2026年1-3月)	1Q (2026年4-6月)	2Q (2026年7-9月)	
営業収益	3,018	2,837	3,142	4,220	3,974	6,331	+123.2%
営業利益 (利益率)	1,395 (46.2%)	1,034 (36.5%)	1,410 (44.9%)	2,320 (55.0%)	2,097 (52.8%)	4,310 (68.1%)	+316.8%
経常利益 (利益率)	1,413 (46.8%)	1,029 (36.3%)	1,409 (44.9%)	2,308 (54.7%)	2,080 (52.4%)	4,310 (68.1%)	+318.9%
親会社株主に 帰属する 四半期純利益 (利益率)	1,079 (35.8%)	668 (23.5%)	1,000 (31.8%)	1,496 (35.4%)	1,426 (35.9%)	2,867 (45.2%)	+329.2%

預り資産推移

金融を、もっと面白く。



- ✓ 9月の急激な円高進行に伴う実現損の発生が影響し、第2四半期の増加分はほぼ横ばい。
大相場の反動減が出ているため、下期における回復軌道への引き上げが課題



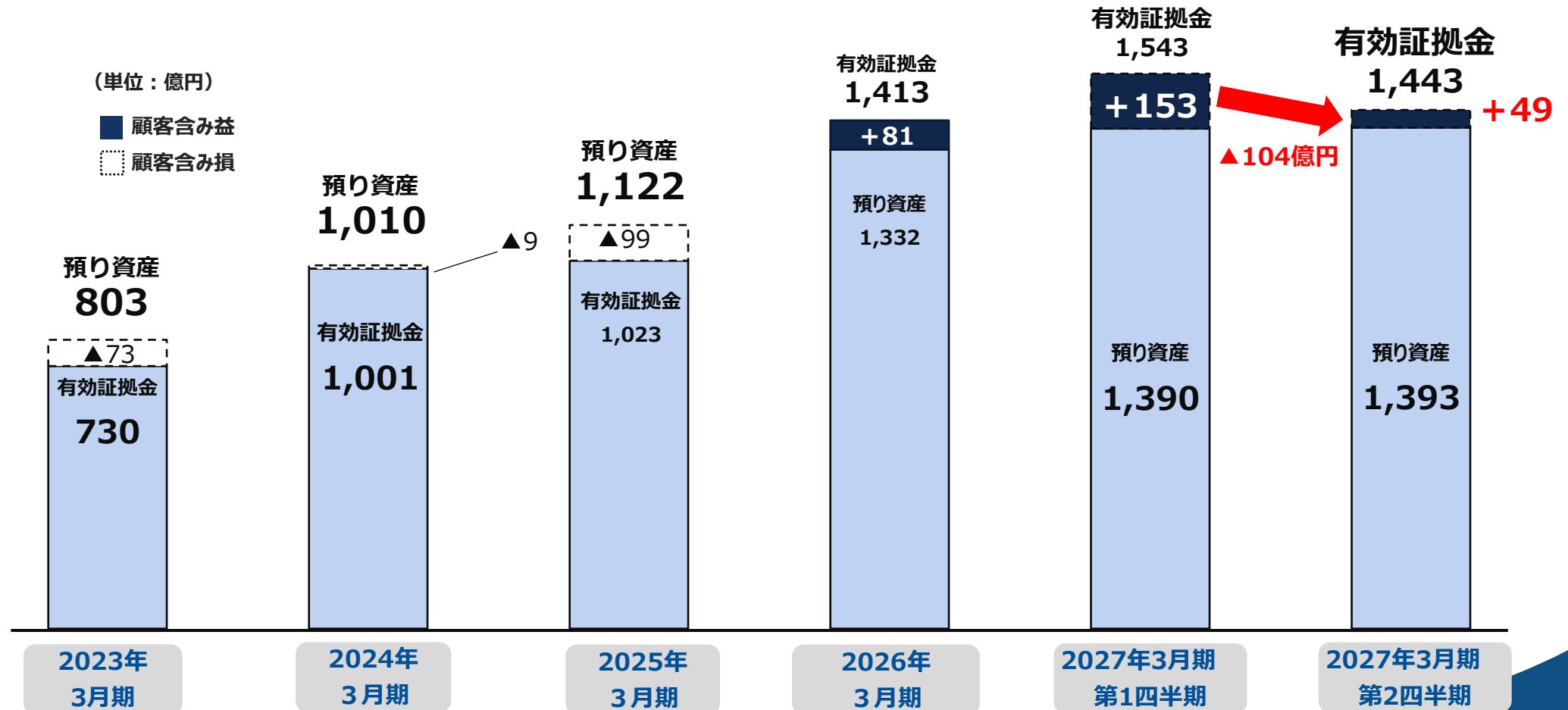
【補足説明】有効証拠金の推移

金融を、もっと面白く。



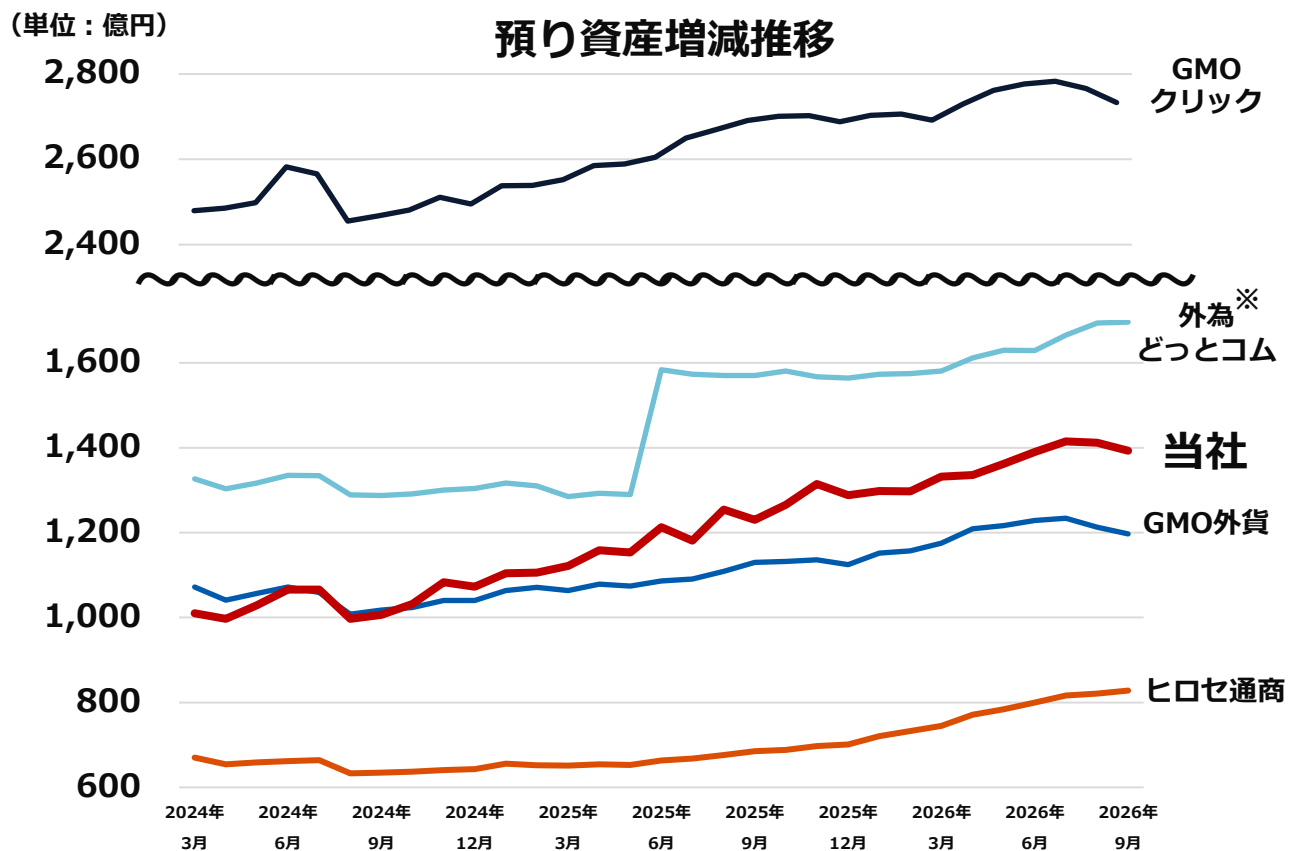
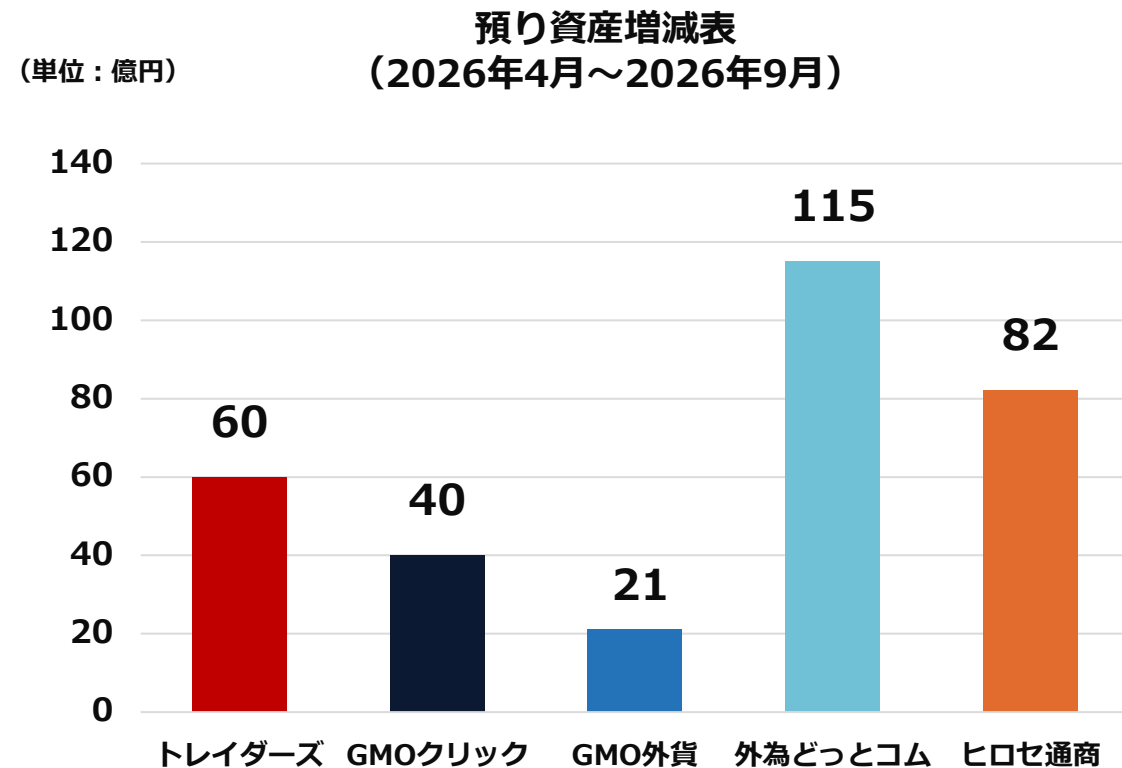
- ✓ 第1四半期末の顧客含み益 +153億円は、第2四半期末には+49億円まで縮小（含み益▲104億円）
為替介入等を契機とした相場急変により、円安局面で積み上がっていた顧客ポジションの損益環境が大きく変化

※有効証拠金とは預り資産に未実現損益（建玉の含み損益）を加減した金額です。



FX業界における預り資産他社比較

- ✓ 9月の急激な円高進行に伴う実現損の発生は各社共通に影響が出たが、最近の過熱したトルコリラマネーの大量流入が一部の事業者の顧客預り資産を押し上げた。
- ✓ 当社は通期目標1,500億円へ向けて下期挽回を図る。



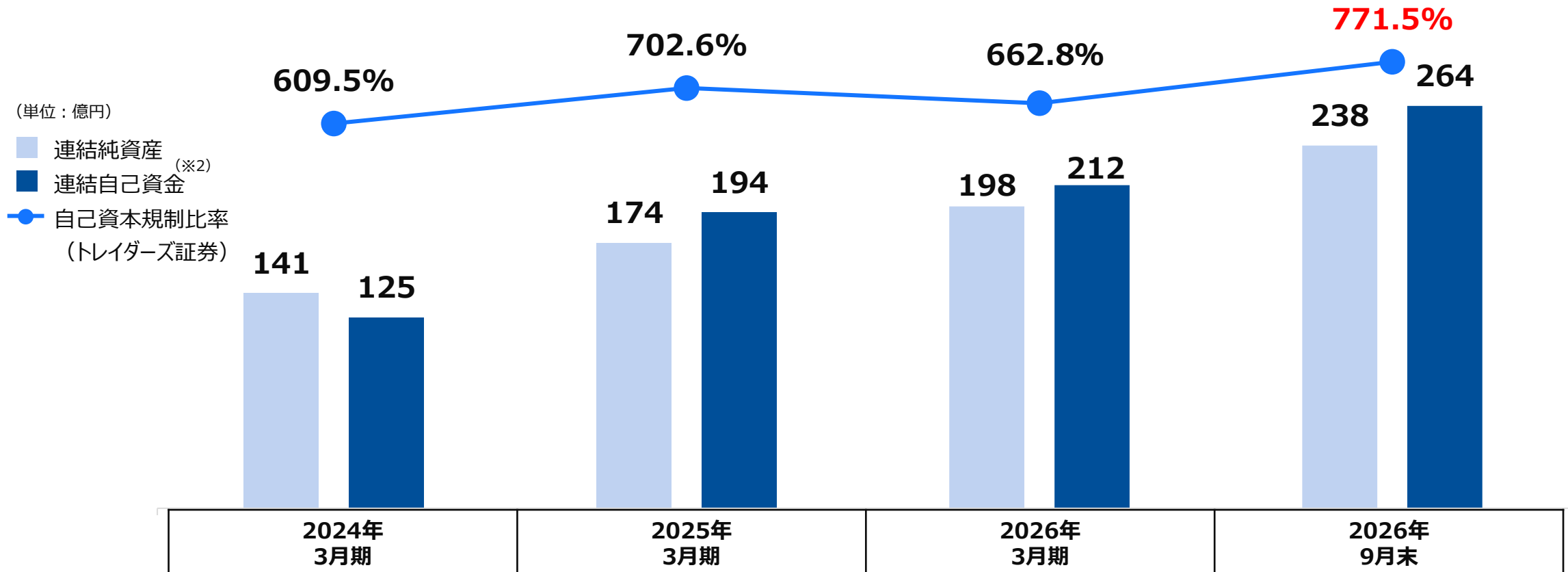
出典：FXに関する月次預り資産をウェブサイト又は開示書類で公表している企業より掲載しております。

連結純資産および連結自己資金並びに財務安全性の推移

金融を、もっと面白く。



- ✓ 上期の利益計上により連結純資産および連結自己資金は増加、財務の健全性が一段と向上
- ✓ 今後もリスク計算額の増加に見合う自己資本を確保し、ストレステスト（※1）を踏まえた適切な自己資本余力を維持することで、取引制限の発動による機会損失を発生させない財務管理は引き続き重要
- ✓ 資本の内部留保も重視して「固定化されていない自己資本」を確保し、FX事業への再投資と位置付ける



(※1) 金融商品取引業等に関する内閣府令第123条第1項第21号の4に基づくもの

(※2) 連結自己資金 = 連結現金預金 + 短期差入証拠金 - 有利子負債
(資金のうち顧客分別金を除いた当社グループに帰属する短期の自己資金)

金融を、もっと面白く。



2027年3月期通期業績予想

2027年3月期 決算見通し（上方修正）

金融を、もっと面白く。



- ✓ 相場環境として低ボラティリティ期間の継続およびトルコ短期金利の低下の可能性を考慮
- ✓ 統計的な収益予測の観点から年間ベースの収益率は平均的水準への回帰を想定し、下期の収益予測は上期実績より保守的に見込む
- ✓ 通期の販売費及び一般管理費は期初予想とおおむね同水準を見込み、営業収益の上振れが利益を押し上げ、期初予想比で営業収益・営業利益ともに+20億円の上方修正

(単位：百万円)	2026年3月期 (実績)	2027年3月期 (期初予想)	2027年3月期 (修正予想)	期初予想比	
				増減額	増減率
営業収益	13,218	15,700	17,700	+2,000	+12.7%
営業利益 (営業利益率)	6,161 (46.6%)	7,000 (44.6%)	9,000 (50.8%)	+2,000	+28.6%
経常利益	6,161	7,000	9,000	+2,000	+28.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,244	4,800	6,100	+1,300	+27.1%
預り資産	1,332億円	1,500億円	1,500億円	-	-

金融を、もっと面白く。



2027年3月期の施策

「新みんなのリピート」に実装済みの独自技術2件について、新たに特許を取得

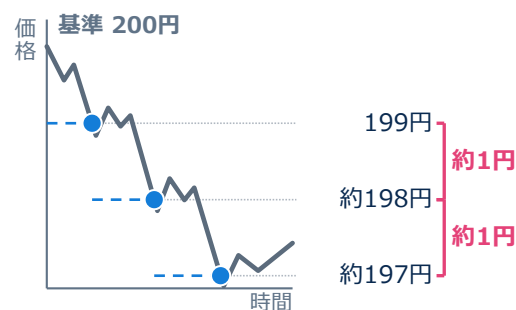
特許2件 新みんなのリピート

特許① 変動率リピート（仮称）

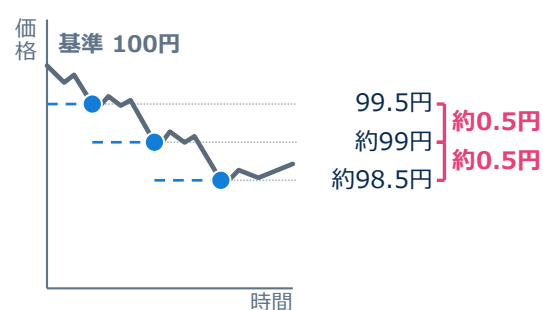
価格水準に応じた値幅で、自動売買を繰り返す

同じ変動率0.5%でも、価格水準に応じて注文の値幅が変わる

価格200円付近



価格100円付近



● 新規買い

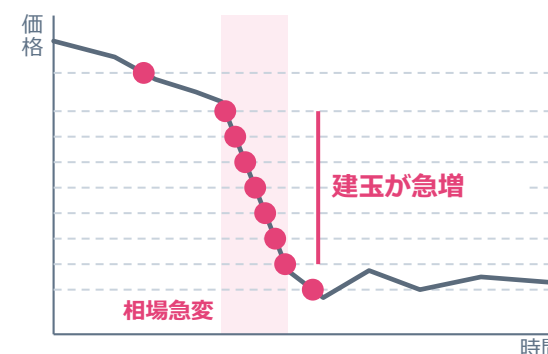
模式図：変動率0.5%・スリッページなしの例（値幅は概数）

固定値幅では注文間隔が一定。変動率リピート（仮称）は、
価格に対する一定の割合で次の注文値幅を設定
価格帯が変動したのちにも一定の取引を確保

特許② ステップスライド（仮称）

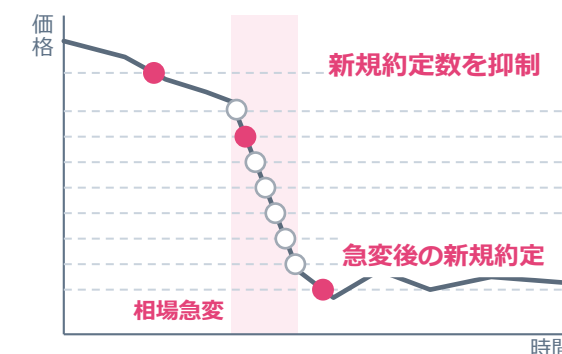
相場急変時の建玉の増加を抑える

従来のリピート注文



ステップスライド（仮称）

模式図



● 約定（建玉） ○ 抑制により約定しない注文

急変時に新規約定数が抑制される場合の模式図

スリッページや窓開け発生時の相場急変時は新規注文の約定数が抑制され、短時間に建玉（未決済の保有ポジション）が増えることを回避。短期間の含み損の急拡大軽減に

特許①

+

特許②

2つの技術を組み合わせた効果

急変時の新規約定を抑えて建玉の急増を防ぎ、急変後も一定の変動率に基づく値幅で注文することで、含み損の拡大抑制と取引機会の維持を図る

顧客獲得・取引活性化に向けた取り組み

金融を、もっと面白く。



≫ 第2四半期は、入金・取引促進キャンペーンに加え、高金利通貨の商品条件・顧客還元を強化 下期も預り資産獲得に向けた施策を継続

- ✓ 「総額5,000万円山分けキャンペーン」
にて入金と新規取引の双方を対象とした還元施策を実施
「スワップ上乘せキャンペーン」にて高金利通貨における運用選択肢と顧客還元を拡充、
下期も「最大300万円キャッシュバックキャンペーン」にて
全通貨ペアを対象に、入出金差額と新規取引数量に
応じて還元し、預り資産・取引活性化を促進等の
魅力的なキャンペーンを複数開催
- ✓ 既存顧客の取引活性化および継続利用促進を目的とした個別還元施策を強化

みんなのFX + LIGHTFX

ご入金・お取引に応じて
総額 5,000万円
山分けキャンペーン

要エントリー 2026年8月3日～9月30日

ハンガリーフォリント/円 3周年記念

→ 複数付与日に →
スワップ上乘せ
キャンペーン

スワップ付与日数
3倍dayは
8倍

スワップ付与日数
5倍dayは
10倍

合計最大 **50日分** 上乘せ

要エントリー 2026年8月3日～9月30日

※新規建玉が対象

みんなのFX + LIGHTFX

ご入金で還元額アップ!
お取引に応じて
最大 300万円
キャッシュバックキャンペーン

要エントリー 2026年10月1日～11月30日

メディア戦略の強化

金融を、もっと面白く。



- ▶▶ 動画・ラジオを通じた情報発信を拡充し、投資経験を問わず幅広い層との接点を強化
- YouTubeで新たな層への認知を広げ、ラジオでは取引経験豊富なFXユーザーにも役立つ情報を発信
- 金融を身近に感じられるコンテンツを継続的に届け、将来の顧客基盤の拡大を目指す

YouTube公式チャンネル「 트레이ダーズ証券 金融を、もっと面白く。」

金融・経済から資産形成、FXまで、専門家や投資家による解説・対談を配信

・YouTubeチャンネル実績

総再生回数

1,217 万回

総再生時間

144 万時間

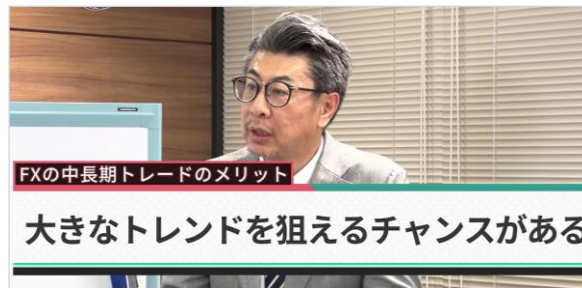
チャンネル登録者数

6.4 万人



<https://www.youtube.com/@traderssec.chNO1/videos>

- ✓ 毎週2本を定期配信（1～10月に80本公開）
- ✓ 10万回再生以上の動画が33本
- ✓ 毎回、専門家・著名投資家など多彩なゲストが出演



みんなのFXラジオ

現役為替ディーラーと多彩なゲストが、為替・経済動向を解説。
FXユーザーに向けて、実践的な情報をきめ細かく発信



著名投資家のテストさんにもご出演いただきました

- ✓ ラジオNIKKEI第1で毎週火曜に放送（45分）
- ✓ 毎回ゲストを迎え、リスナーの質問に一問一答で回答
- ✓ ポッドキャストでも配信

提供：トレーダーズ証券

<https://www.radionikkei.jp/minna/>

サイバーセキュリティに対する基本姿勢

金融を、もっと面白く。



》 相次ぐサイバー事案を当社にも起こり得る脅威として重く受け止め、 経営上の重要課題として警戒と対策を強化

基本認識

- ✓ 情報漏えいやサービス停止は、信頼と事業継続を揺るがす重大リスク
- ✓ お客様の資産と個人情報を守り、安心な取引環境を維持する責任

足元の取り組み

- ✓ 他社の事案を逐次分析し、同じことが当社で起きたらと想定して、システムや業務フローの細部まで点検・見直し
- ✓ 一般社団法人金融先物取引業協会が示すセキュリティ関連の要請・更新事項は、速やかかつ適切に対応
- ✓ 「みんなのFX」にパスキー認証を導入（2026年3月）
ログイン時に加え、出金手続き等の重要な操作時にも適用
- ✓ ログインアラート、なりすましメール対策（BIMI）等も導入

今後の方針

- ✓ 変化する脅威に対し、隙のない守りを常に追い求める
不断の見直しと更新を重ね、経営資源を配分し継続的に強化

みんなのFX お知らせ（2026年3月30日）より



ログイン画面
ソフトウェアキーボードを搭載
セキュリティ対策ページより

金融を、もっと面白く。



株主還元・株式情報

株主還元

金融を、もっと面白く。

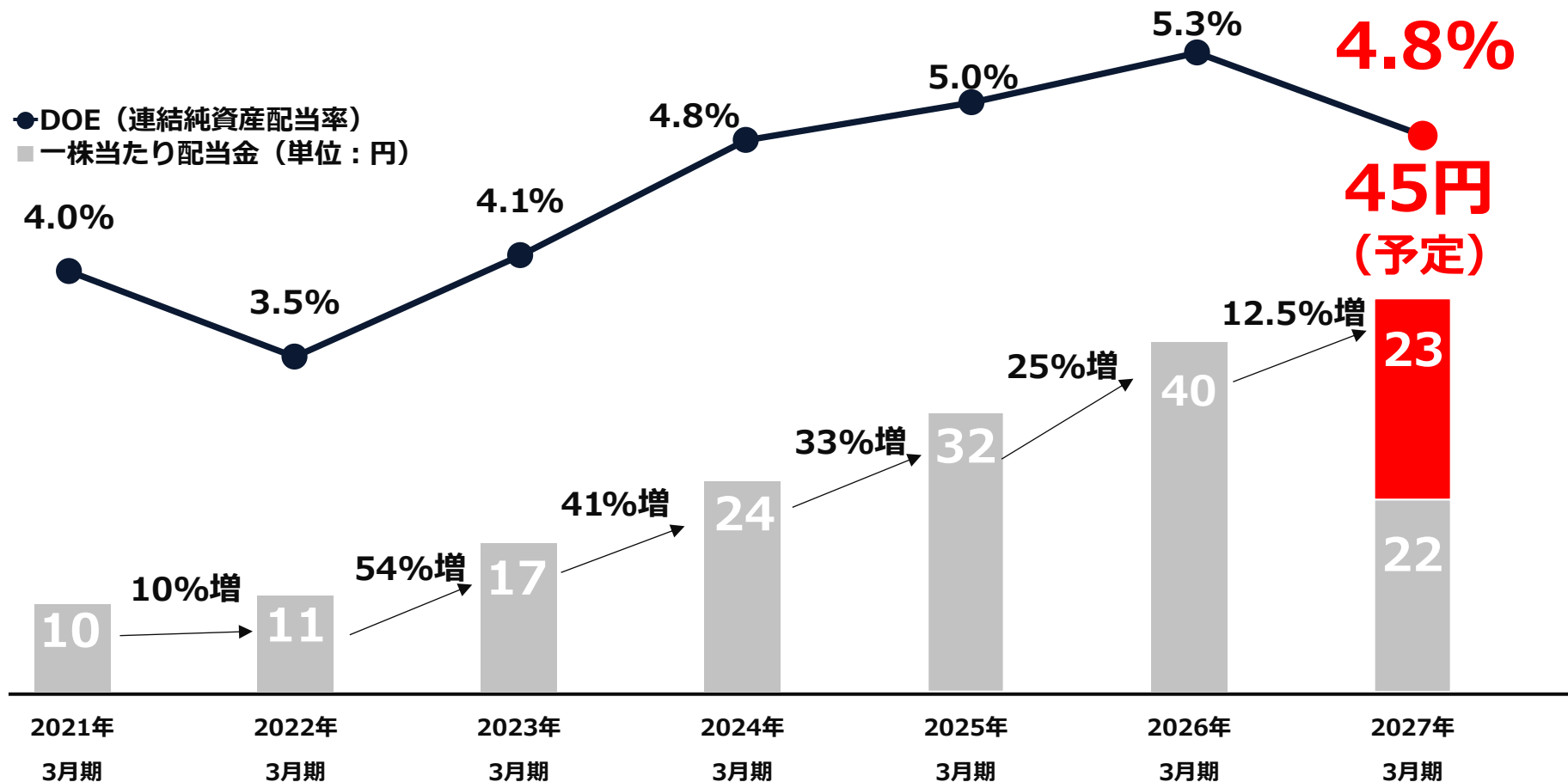


【還元方針】

- ✓ **連結純資産配当率（DOE）5%**を目安に年2回の安定的な配当を継続して行う

【配当予想】

- ✓ 現時点では年間45円の配当予想を据え置くが、今後の業績進捗や純資産の状況を踏まえ期末配当について適切に判断



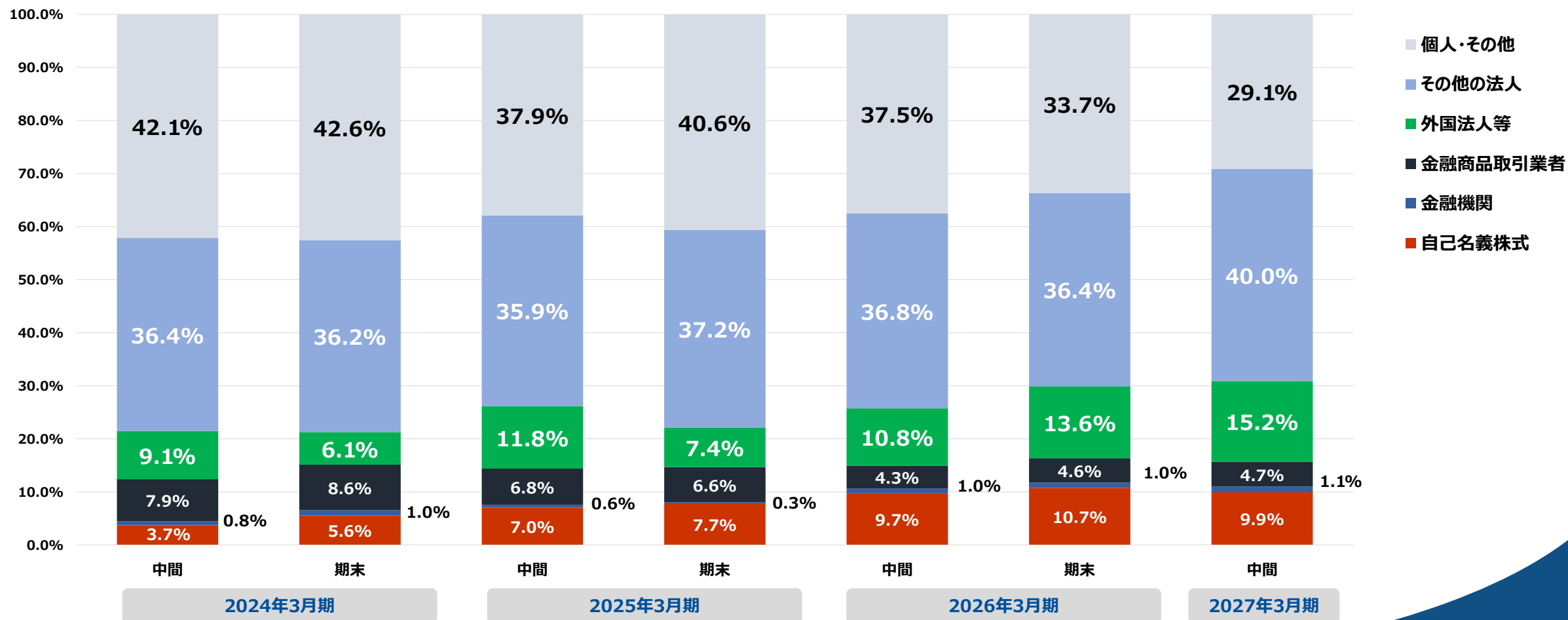
※2027年3月期のDOEは、年間配当予想45円および現時点における期末純資産見込みに基づく予想値です。

株式情報（保有状況分布表）

金融を、もっと面白く。



- ✓ 外国法人等の保有比率が上昇し、株主構成は機関投資家の比重が高まる方向へ
- ✓ 中長期的な企業価値向上を共有できる投資家層のさらなる拡大に向け、IR・資本政策を継続



※「外国法人等」には、国内運用会社の運用資金が海外カストディアン等の名義で保有されているものを含む場合があります。

金融を、もっと面白く。



Appendix

2026年8月3日付で日本経済団体連合会（経団連）に入会

経団連会員企業との交流・連携を通じ、
金融・IT分野で培った知見を経済界へ還元

Keidanren
Policy & Action

関連情報：経団連ウェブサイト <https://www.keidanren.or.jp/newface.html>
<https://www.keidanren.or.jp/profile/pro001.html>

投資魅力の高い会社として指数構成銘柄に選定

金融を、もっと面白く。



4年連続で「JPX日経中小型株指数」構成銘柄に選定

4年連続で選定されたスタンダード市場上場企業は、当社を含む2社 ※当社調べ



JPX-NIKKEI Mid Small

2023 - 2026年度選定

資本の効率的活用や投資者を意識した経営観点など、「投資者にとって投資魅力の高い会社」が採用される「JPX日経中小型株指数」に**4年連続で**選定されました

□ JPX日経中小型株指数とは

- ✓ JPX総研と日本経済新聞社が共同で算出した、JPX日経400と同じコンセプトを中小型株に適用し、**持続的な企業価値の向上、株主を意識した経営を行っている企業**で構成する株価指数
- ✓ 東京証券取引所のプライム市場、スタンダード市場、グロース市場の対象銘柄の中から、定量的な指標のスコアリングに加え、定性的な要素を加えた基準に基づき**200銘柄が選定**

Sustainability Policy

トレイダーズグループの考えるサステナビリティ

これまで、わたしたちは様々なステークホルダー、すなわち株主、投資家、お客様、お取引先、社員、関係諸機関等と適切に協働し、もしくは支援を得ながら、企業として少しずつ成長の道を歩んでまいりました。当社グループは、上場会社として、また、様々な事業を営む企業体として、自己の利益だけを追求することなく、これからも、金融商品取引事業とシステム開発コンサルティング事業のそれぞれの活動そのものの中で、長期的に社会や環境に貢献しうるマテリアリティへの取り組みを進めてまいります。

今後、当社グループの成長をけん引するために、ステークホルダーとの協働により、社会的価値と経済的価値を向上させ、または、創造する取り組みを推進することこそが、社会や環境面におけるサステナビリティを巡る諸課題に対する、わたしたちの義務と責任であり、使命であると考えています。

社会的な課題の解決のために

金融リテラシー向上への取り組み

高校生8名を迎え、ジョブシャドウイングを4年連続で実施

聖光学院中学校・高等学校に加え、今年は洗足学園中学校・高等学校、湘南白百合学園中学・高等学校からも参加



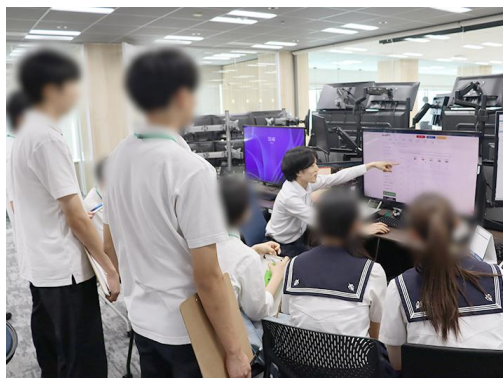
本プログラムは、2026年8月にNPO法人JUKEが主催する高校生向けジョブシャドウイングの一環として実施され、3校計8名の高校生を受け入れました。

当日は、外国為替ディーリング業務の見学や社員との対話を通じて、金融業界の仕事やチームで働くことの大切さ、将来のキャリアについて理解を深めていただきました。

また、実際の職場や業務に触れることで、金融業界をより身近に感じていただく機会にもなりました。

参加者からは「金融業界へのイメージが変わった」「学校では得にくい生きた内容を知ることができた」といった感想が寄せられ、アンケートでも高い満足度を得ました。

実際の仕事や社員との対話を通じて、金融への理解を深めるとともに、自身の将来や働くことについて考える機会を提供できたものと認識しています。

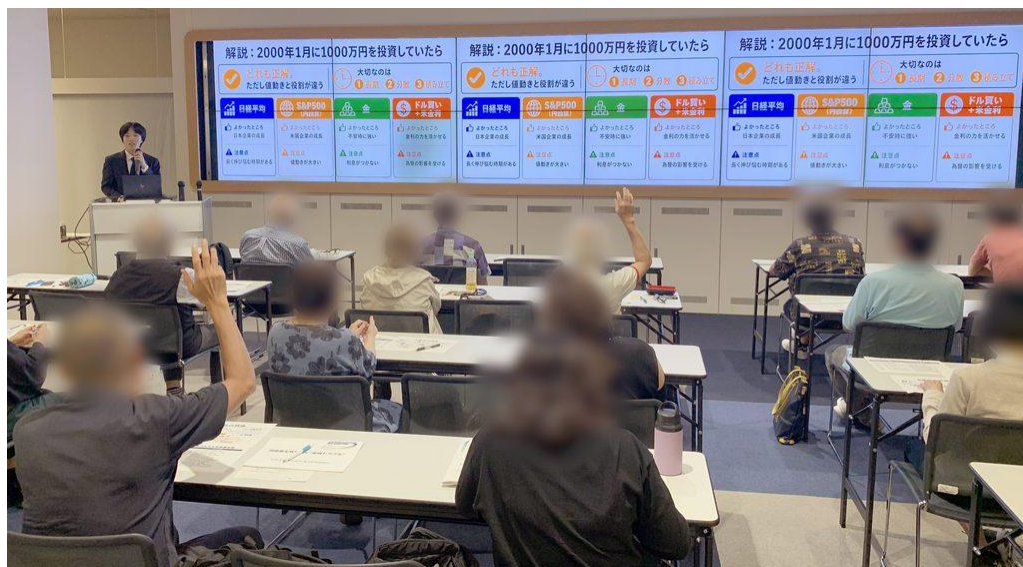


社会的な課題の解決のために

金融リテラシー向上への取り組み

渋谷ハチコウ大学において、金融経済や特殊詐欺・AI詐欺をテーマとした講座を実施 金融・IT分野の知見を活かし、シニア世代の金融・デジタルリテラシー向上を支援

2026年8月に渋谷区が主催する55歳以上の区民を対象とした「渋谷ハチコウ大学」の自主企画講座として、金融経済初級講座を実施しました。講義では、特殊詐欺やSNS型投資詐欺などの金融トラブルへの対策に加え、円安・物価上昇・年金・金利・複利、長期・積立・分散投資など、暮らしを守り将来に備えるためのお金の知識を幅広く解説しました。また、体験ワークを通じて、市場環境による資産価値の変化や分散投資の重要性について理解を深めていただきました。参加者からは「金融トラブルの実例が参考になった」「投資のバランスについて考えるよい機会になった」といった感想が寄せられました。



FleGrowthは、渋谷警察署と連携し、「巧妙化するAI詐欺から身を守る」をテーマとした特殊詐欺・AI詐欺対策講座を実施し、28名が受講しました。講座では、特殊詐欺の最新手口に加え、AIを活用した音声クローンや会話AIを実演し、AIの進化によって詐欺の手口がどのように変化しているかを解説しました。あわせて、不審な電話はいったん切って正規の番号にかけ直す、別の連絡経路で確認するなど、日常生活で実践できる具体的な自己防衛策を紹介しました。アンケートでは、理解度・有益度96%、満足度・推奨意向92%となり、「生成AIとの会話が自然で技術の進歩に驚いた」などの感想が寄せられました。



社会的な課題の解決のために

金融リテラシー向上への取り組み

2026年10月、学習院大学にて、3回目の金融経済教育に関する特別講義を実施 学生約100名に向け金融とキャリア形成を結び付け、将来を主体的に考える力を育む



2026年10月6日、学習院大学の竹内上人特別客員教授が担当する「キャリアデザインⅠ」において、約100名の学生を対象に金融経済教育の特別講義を実施しました。

本講座への登壇は、2025年12月、2026年4月に続き3回目となります。 트레이ダーズ証券取締役・井口喜雄が講師を務め、「人生100年時代へ 新時代を生き抜く、お金との向き合い方」をテーマに、資産形成の基本となる「長期・積立・分散」やリスクとリターン、投資詐欺への注意点などを解説。

また、「長期的な視点」「不確実性の中での意思決定」「経験や学びの積み重ね」など、投資とキャリア形成に共通する考え方を紹介しました。授業後半には、各国の政治・経済情勢や金利、物価などを比較し、投資対象の通貨を検討するグループワークを実施。学生たちは意見交換や発表を通じて、複数の情報をもとに判断することの重要性を学び、自らの判断の根拠を考えるプロセスを体験しました。

受講後のアンケートでは、授業満足度、講師の説明の分かりやすさがともに97%となりました。「投資をする際にどのような情報に着目すべきかを学ぶことができた」「将来を考える上で資産形成について学ぶ必要性を感じた」などの声が寄せられました。当社グループは、金融を資産形成のための知識にとどまらず、社会や経済を理解し、自らの将来を主体的に考えるための教養として捉えています。今後も教育機関や自治体等と連携し、金融リテラシーの向上と、自ら考え、判断し、行動する力の育成を支援してまいります。



金融を、もっと面白く。



MISSION

ミッション

新たな価値を創造し続ける

Create the New Values

VISION

ビジョン

お客様から最も信頼される“FinTech”グループとなり、
だれもが未来に投資できる社会を実現させる

金融を、もっと面白く。



VALUE

バリュー

トレーダーズ
ホールディングス

関わるすべての“人”を大切にしながら、
コンプライアンスとダイバーシティ（多様性）を尊重した経営で、
変革にチャレンジし続ける

トレーダーズ証券

金融リテラシーの向上に貢献しながら、
お客様と社会が求める新たなサービスの提供にチャレンジし続ける

FleGrowth

競争力のあるサービスを提供しながら、スピード感をもって
安定的かつ革新的なシステム開発にチャレンジし続ける

本資料に関する注意事項

当資料に掲載されている事業戦略や目標数値、見通し等の将来予想に関する記述は、当社が現時点で入手可能な情報に基づいて判断した内容であり、実際の業績等の結果は、今後の経済情勢や事業環境、為替市場の動向等、様々な不確定要素その他リスク等に起因して、記述とは大きく異なる可能性があります。

また、マーケットシェアや市場規模等の数値について一部当社の推計値が含まれており、調査手法等によって異なる可能性があります。

本資料は、投資勧誘を目的としたものではありません。

本資料に関するお問合せ

트레이ダーズホールディングス株式会社
ir@tradershd.co.jp (IR担当)



金融を、もっと面白く。